

## 令和6年度第3学期始業式 式辞

令和7年、2025年が始まりました。そして、本日は始業式、令和6年度の仕上げの3学期のスタートです。

今年は、十二支で言うと巳年、もう少し詳しく、十干と十二支を組み合わせた言い方は、「乙（おつ）」という字に「巳」で、「乙巳（きのとみ）」の年です。「乙（きのと）」は、「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持っており、柔軟性や協調性を象徴しているそうです。「巳（み）」、蛇は脱皮を繰り返し新たな姿に生まれ変わることから再生や変化の象徴とされています。皆さんも、ときには失敗や困難を経験することもあるでしょうが、それらを受け入れ、糧とすることで、立ち上がり、更に成長することができるでしょう。まさに、レジリエンスです。今年が、皆さんにとって、過去の失敗も新たな成長へと変える絶好の年に、蛇や草木のように再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になることを願っています。

さて、「今年を変化の年に」という話をしたわけですが、「不易流行」という言葉を聞いたことがあると思います。「不易流行」は、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅をする中で体得した概念と言われています。「不易」は、時間がたっても変わらないもの、変えてはいけぬものであり、「流行」は、時代や状況に応じて変わっていくものと、別々に説明することもできますが、本来は、「その元は一つなり」という言葉も残されているとおり、どちらも大切であり、その根本は結びついていると言えます。つまり、「不易流行」とは、いつまでも変わらない本質的なものの中に新しい変化を取り入れることを指す言葉でしょう。本校の重点努力目標は「起こせ！ イノベーション」です。百年以上にわたって先輩方が築いてきた伝統を大切にしながら、時代や周囲の環境に対応して変革し続ける学校です。本日の愛媛新聞に掲載された「全国高校生農業アクション大賞」準大賞受賞などのように、先輩から受け継ぎ、更に工夫・進化させていく、そのことを実践している学校です。皆さんの力で南高を更に魅力的な学校へと脱皮させてください。また、皆さん一人一人も、置かれた立場の中で、人として、南高生としての変えてはいけぬところを大切にしながら、未知のものや変化を恐れず、高みを目指す気持ちを忘れず努力を継続し成長して欲しいと思います。

それでは、皆さんが充実した3学期を過ごし、そして、達成感を持って学年を終えることを願って、式辞といたします。